

平成28年度 病害虫発生予察情報

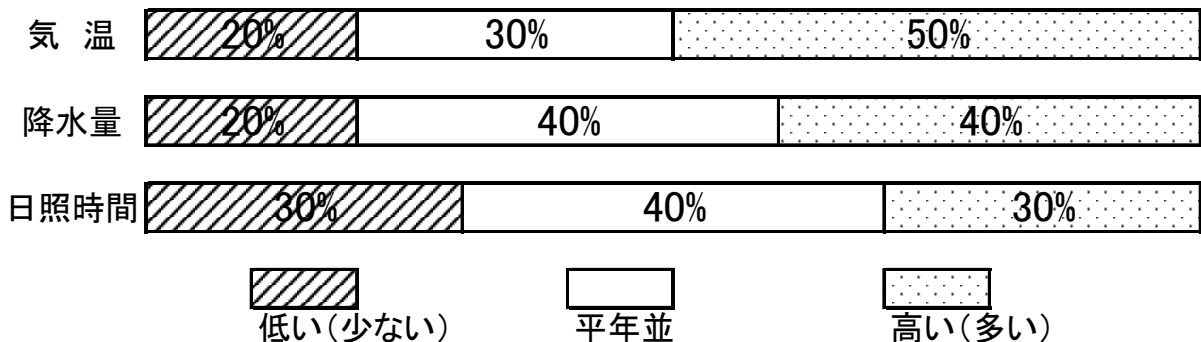
発生予報第4号 (7月)

平成28年7月1日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	やや多い		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		縞葉枯病	平年並		
		萎縮病	平年並		
		黄化萎縮病	平年並		
		ヒメトビウンカ	やや多い		
		ニカメイチュウ	やや多い		
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い		
		セジロウンカ	やや多い		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや多い～多い
				黒星病	平年並
シンクイムシ類	平年並				
ハマキムシ類	平年並				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	平年並				
カキ	円星落葉病			平年並～やや多い	
	カキミガ			平年並	
果樹全般	カメムシ類			やや少ない	

中国地方1か月予報(7月2日～8月1日・広島地方気象台6月30日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

発生時期

発生量

県内全域

平年並

やや多い

予報の根拠

- ①育苗期に発生が認められ、6月上旬に実施した置き苗の調査（1223ほ場対象）での発病苗率は2.0%（平年0.4%）であった。
- ②6月下旬の巡回調査（70ほ場）では一部地点での発生が多く、発生ほ場率8.6%（平年0.1%）、発病株率3.1%（平年0.01%）であった。
- ③常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ④向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 紋枯病

予報内容

- 発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①前年、発病程度の高いほ場があり、このようなほ場では越冬菌量が多い。
- ②6月下旬の巡回調査（70ほ場）では発生ほ場率1.4%（平年1.7%）で、発生量はほぼ平年並みである。
- ③常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ④向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 縞葉枯病

予報内容

- 発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- ②近年の保毒虫率は低い。

(4) 萎縮病

予報内容

- 発生地方 常習発生地
発生量 平年並

予報の根拠

- ①媒介虫のツマグロヨコバイの発生量は平年並み～やや多いと予想される。
- ②近年、本病の発生は極めて少なく、保毒虫率は低いと考えられる。

(5) 黄化萎縮病

予報内容

- 発生地方 常習発生地
発生量 平年並

予報の根拠

- ①近年、本病の発生は少ない。
- ②向こう一か月の気象は本病の発生をとくに抑制しない。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

- 発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①6月下旬の巡回調査では、捕獲数は1.0頭/50株（平年0.6頭）、発生ほ場率は26.1%（平年20.8%）で発生量は平年に比べやや多い。
- ②出雲市、隠岐の島町、益田市の予察灯への誘殺は認められない、出雲市のネットトラップでは6月6日に飛来が確認された。飛来数は平年並みである。
- ③4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
- ④向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(7) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

- 発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①6月下旬の巡回調査では、被害株率は0.2%（平年0.2%）で発生量は平年並みである。
- ②予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べやや多い。
- ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は2.6頭/50株（平年2.7頭）、発生ほ場率は21.7%（平年39.5%）で発生量は平年並みである。
- ② 予察灯における誘殺は平年と比べ多い。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 初飛来は6月16日に益田市の予察灯で確認された。6月25日までに出雲市の予察灯への誘殺は14頭（平年20.7頭）と平年並みである。
- ② 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は6.6頭/50株（平年4.0頭）、発生ほ場率は73.9%（平年45.5%）で発生量は平年と比べやや多い。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月25日までに予察灯、粘着誘殺灯、ネットトラップで誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査ではほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月25日までに予察灯、粘着誘殺灯、ネットトラップで誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査ではほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で10.8頭/20回振り（平年6.9頭）、発生ほ場率は67.6%（平年65.0%）で発生量は平年に比べやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率8.6%（平年6.3%）であり、発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は1.7%（平年1.3%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう一カ月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。

② 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① 県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。

② 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

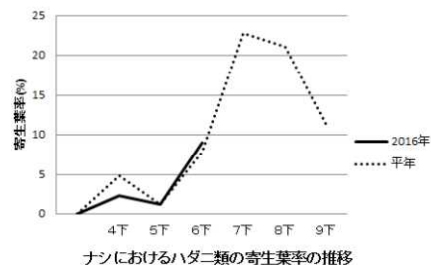
発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の発生量は寄生葉率9.0%（平年7.8%）、寄生虫数22.5頭/50葉（平年18.9頭）と平年並みである（グラフ参照）。

② 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

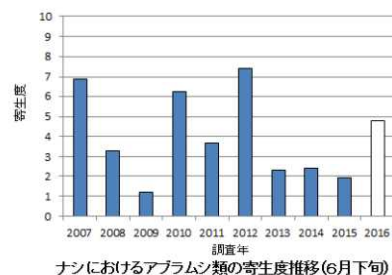
発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の寄生新梢率8.8%（平年9.3%）、寄生度4.8（平年4.0）と平年並みである（グラフ参照）。

② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。

③ 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量（感染量） 平年並～やや多い

予報の根拠

① 前年の発生は平年並みで、伝染源量は平年並みと考えられる。

② 向こう一カ月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) カキミガ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ②向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域 (特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①6月第5半旬までのフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は16頭 (平年228.1頭) とやや少ない。
- ②6月5半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は20頭 (平年値128.8頭) でやや少ない。
- ③向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を!

- ・農薬の使用基準 (適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数) を遵守する
- ・防除履歴 (使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量) を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散 (ドリフト) しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>